

世界のカラマツの分布

世界中にはどのようなカラマツがあるか、どのような状態で分布しているのかについて記してみたい。

カラマツの分布について述べる前に、カラマツに似ている樹木について述べる。

カラマツに似ている樹木

カラマツは冬期落葉する針葉樹で、この仲間にはよく知られているメタセコイヤ、ラクウショウなどがある。

メタセコイヤ

メタセコイヤは中国四川省で第二次世界大戦中に発見されたもので、昭和20年代に日本に導入されている。

ラクウショウ

メタセコイヤに似ている樹木にラクウショウがある。この樹木は北米のフロリダ南部の湿原に自生する樹木である。メタセコイヤもラクウショウも葉だけ落すのではなく、葉をつけた小枝を落す。球果はスギに似ており、スギ科に属する樹木である。

イヌカラマツ

カラマツに似たイヌカラマツが中国に自生している。以前はカラマツ属に含まれていたが、モミ属の球果と同じように球果の果鱗が脱落するのでカラマツ属から独立してイヌカラマツ属とされた。現在中国に一種のみ分布している。

カラマツの分布

カラマツ属はマツ科に含まれ、北半球にのみ分布している。なお、その分布はアカマツのように連続した分布を示さず、局所的な分布である。

カラマツの種類は学者によって10種から15種とされている。ここでは主なカラマツ10種と、われわれに身近な変種のカラマツについて各々の地域的な分布を示す。

(1) 北アメリカのカラマツ

アメリカカラマツ

ペンシルバニア北部、ミネソタ中部からアラスカ南部に自生している。

アラスカカラマツ

アラスカの河畔に自生する。アラスカカラマツはアメリカカラマツの変種である。

セイブカラマツ

北アメリカの西部ブリティッシュコロンビア、モンタナ東部からオレゴンまでの海拔600~2,300mに自生している。樹皮が厚いので防火用に植栽されている。

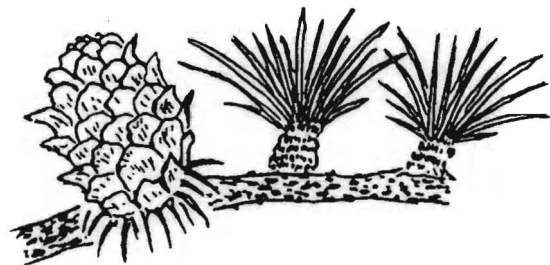
タカネカラマツ

セイブカラマツの自生している地方の森林限界である海拔2,000~3,000mの高山にタカネカラマツが自生している。

北アメリカのカラマツは一般的にアメリカンラーチ、ウェスタンラーチ、アルペンラーチと呼ばれているが別名タマラックとも呼ばれている。

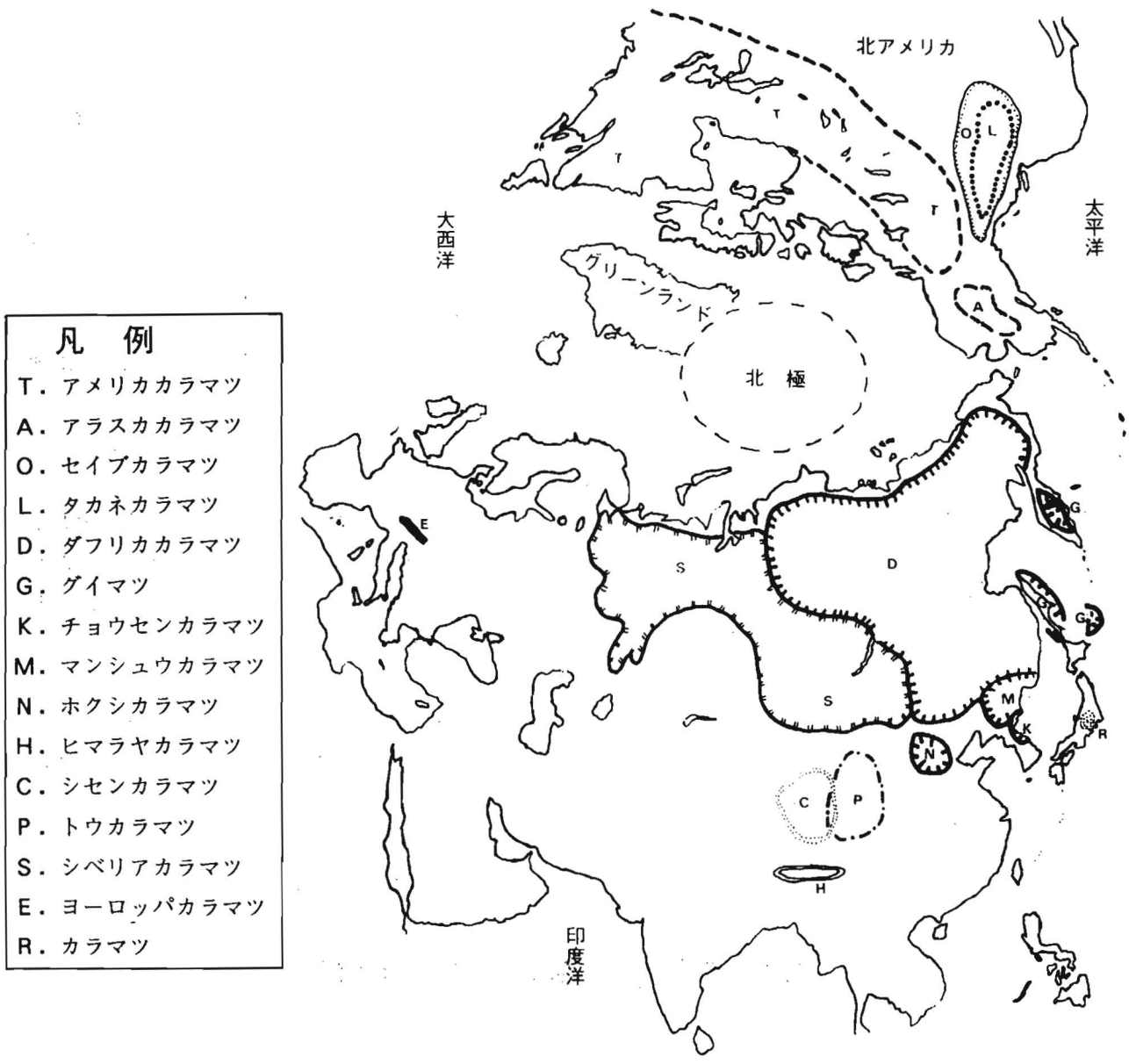


ダフリカカラマツ



カラマツ

図-1 ダフリカカラマツとカラマツ



- 凡 例**
- T. アメリカカラマツ
 - A. アラスカカラマツ
 - O. セイブカラマツ
 - L. タカネカラマツ
 - D. ダフリカカラマツ
 - G. グイマツ
 - K. チョウセンカラマツ
 - M. マンシュウカラマツ
 - N. ホクシカラマツ
 - H. ヒマラヤカラマツ
 - C. シセンカラマツ
 - P. トウカラマツ
 - S. シベリアカラマツ
 - E. ヨーロッパカラマツ
 - R. カラマツ

図一2 世界のカラマツの分布

(2) アジア東北部のカラマツ

ダフリカカラマツ

この地域にはダフリカカラマツが広範囲に分布している。シベリア東部からわが国に輸入されるカラマツは、ほとんどがダフリカカラマツであるが、これは球果が小さく枝が細いカラマツである。図一1に日本のカラマツとダフリカカラマツの球果の比較を示した。

グイマツ

南千島から樺太、カムチャッカ半島にはグイマツが生育している。このグイマツは、洪積世には北海道にも自生していたことが泥炭層から出現した化石で明らかになっている。小枝の少ないカラマツで、ダフリカカラマツの変種とされている。

チョウセンカラマツ

朝鮮北部から満州東部の湿地に自生している。

このカラマツはダフリカカラマツの仲間のうちでも球果が大きく、一名大果黄花落葉松とも呼ばれている。図-2にカラマツの天然分布を示しているが、これはグイマツの分布範囲の中で朝鮮北部に示してある。

マンシュウカラマツ

沿海州から満州東部と朝鮮北部に小型の球果をつけるカラマツが自生している。このカラマツをマンシュウカラマツと呼んでいる。また別名黄花松、長日落葉松とも呼んでいる。チョウセンカラマツとともにダフリカカラマツの変種である。

ホクシカラマツ

ダフリカカラマツの変種で中国の山西省から河北省に自生する。これはダフリカカラマツに比較して球果が大きく葉が長い。

(3) シベリア西部からウラル地方のカラマツ

シベリアカラマツ

この地域にはカラマツ属の最北部に生育する、シベアカラマツが自生している。

(4) ヨーロッパのカラマツ

ヨーロッパカラマツ

ヨーロッパにはアルプスの周辺にヨーロッパカラマツが自生している。現在ヨーロッパで植栽されるカラマツは、このヨーロッパカラマツである。

(5) 中国西南部からヒマラヤ東部のカラマツ

ヒマラヤカラマツ

この地域にはヒマラヤカラマツが自生しており、球果が長く(7~10cm)、直径も3cmとカラマツ属中最大のもので、別名雲南落葉松と言われている。

シセンカラマツ(四川紅松)

中国の四川省西部に生育している。現在は伐採されて少なくなっていると言う。

トウカラマツ(紅松)

中国の陝西省、甘肅省、四川省、雲南省の山地で海拔2,300~3,500mに分布している。

(6) 日本のカラマツ

カラマツは主として長野県の南北アルプス、中央アルプス、八ヶ岳、黒姫、戸隠、浅間山及び富士山、日光付近に自生している。そのほかのカラマツについては人工的に植栽されたものか、天然のものか判然としていない。

天然のカラマツの中に夏期球果が赤褐色をしたものがあり、これをアカミノカラマツと呼んでいる。球果が赤褐色であるのみで、そのほかの性質はカラマツと変らない。またカラマツの枝が下垂性となるものにシダレカラマツがある。いずれもカラマツの品種として取扱われている。

(造林部 大木)